

E-Oral Presentation | 術後遠隔期・合併症・発達

E-Oral Presentation 5 (II-EOP05)

Chair:Yoshifumi Fujimoto(Department of Cardiovascular surgery, Shimane University Hospital)

Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 7:15 PM E-Oral Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:15 PM - 7:15 PM

[II-EOP05-04]Vineland-II適応行動尺度を用いた Fontan術後患者の社会適応評価

○小野 晋¹, 柳 貞光¹, 尾方 綾², 稲垣 佳典¹, 加藤 昭生¹, 佐藤 一寿¹, 北川 陽介¹, 咲間 裕之¹, 金 基成¹, 麻生 俊英³, 上田 秀明¹ (1.神奈川県立こども医療センター 循環器内科, 2.神奈川県立こども医療センター 臨床心理室, 3.神奈川県立こども医療センター 心臓血管外科)

Keywords:Fontan, 発達, Vineland

【背景】 Vineland-II適応行動尺度 (Vineland) は世界的に標準化された適応行動の評価尺度である。0歳から92歳の幅広い年齢を対象に、コミュニケーション、日常生活スキル、社会性、運動スキルの「領域標準得点」と、それらを総合した「適応行動総合点」(平均100、標準偏差15の標準得点)によって、対象者の社会適応水準を客観的に数値化できるのが大きな特徴である。【対象】神奈川県立こども医療センターで Vinelandを行った Fontan術後患者53人(1-26歳、平均6歳)。【方法】当院でこれまで行ってきた発達評価尺度である新版 K式発達検査 (K式)、WISC-IV知能検査 (WISC) と Vinelandの関連を検討する。Vinelandの総合点で正常(85点以上)に寄与する因子を検討する。検討項目は(1)胎児診断の有無、(2)低出生体重児、(3)初回 on-pump手術時日齢、(4)手術回数、(5)Glenn手術到達月齢、(6)Fontan手術到達月齢、(7)動脈血酸素飽和度、(8)中心静脈圧、(9)BNPの12項目とした(7、8、9は Fontan手術後約1年の評価カテーテル時の値を採用した)。【結果】 Vinelandの総合点と K式的全領域発達指数、WISCの全検査知能指数は正相関を示した (N=19、R=0.93、 $p<0.0001$) (N=25、R=0.64、 $p=0.0006$)。Vinelandの総合点が正常であることに寄与した因子は単変量解析で初回 on-pump手術時日齢のみであった (Odds比:1.01、 p 値:0.04)。また、ROC曲線より Vinelandの総合点での正常を予測する初回 on-pump手術時日齢のカットオフ値は115日であった (感度:0.69、特異度:0.7、AUC:0.71)。【結論】 Vineland-II適応行動尺度は従来発達評価尺度として用いてきた新版 K式発達検査、WISC-IV知能検査の2検査と正相関を示した。初回 On-pump日齢が遅いことは正常社会適応に寄与し、そのカットオフ値は115日であった。